

経済・金融フラッシュ

No.08-002 2008/4/8

米3月ISM指数は、製造業・非製造業とも 50 割れを継続

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 主任研究員 土肥原 晋

TEL:03-3512-1835 E-mail:doihara@nli-research.co.jp

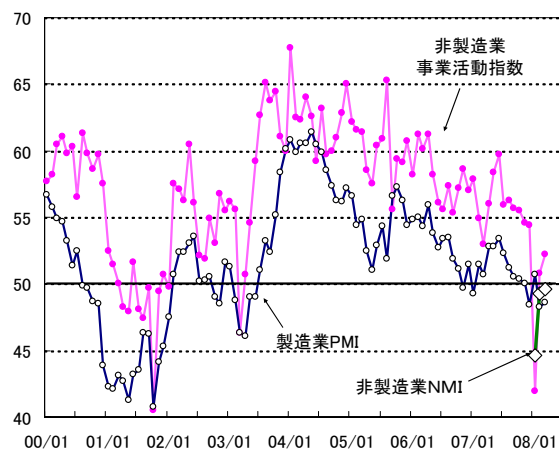
1、製造業・非製造業指数とも、前月より持ち直すも 50 を下回る推移が続く

企業のセンチメントを示す I S M (米供給管理協会) 指数は、3月製造業指数 (P M I) が 48.6 となり、2月 (48.3) や市場予想 (47.5) をともに上回った。しかし、製造業の拡大・縮小の分かれ目とされる 50 は、2ヵ月連続で下回った。

一方、3月の非製造業指数 (N M I、注：1月から総合指数として新設) は 49.6 と 2月 (49.3) から小幅の上昇となり、市場予想 (48.5) を上回った。また、これまで非製造業の景況感を示す指数として注目されていた事業活動指数は 52.2 と 2月 50.8 から上昇し、2ヵ月連続で 50 を上回った。事業活動指数は、1月に 41.9 とテロ事件直後の 2001 年 10 月 (40.5) 以来 7 年 3 ヶ月ぶりの低水準となった。しかし、その後は 50 台の水準を回復し、事業活動が低下したとの回答比率も、1月の 42% から 3月は 20% へと半減している。

もともと、1月より総合指数として新設された N M I は、1月以降 3 ヶ月連続で非製造業の拡大・縮小の分かれ目とされる 50 を下回っており、業況感は依然縮小方向を示している。住宅不況やサブプライム問題の拡大による信用不安に加え、エネルギーコストの上昇、等が実体経済に抑制的に作用していることが窺われる。

(図表1) ISM指数の推移(月別)



(資料) Institute for Supply Management、以下も同じ。

(各指数の内訳)

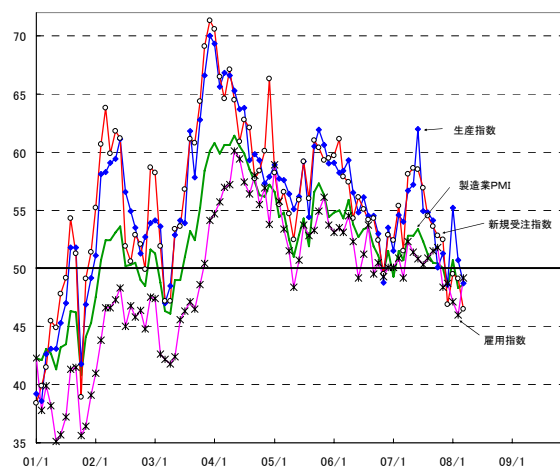
2、製造業指数の内訳では、価格指数が突出する中、輸出が堅調推移

ISM製造業指数のうち、指数別に3月の動きで目立ったのは価格指数の上昇（前月75.5→83.5）で、上昇幅や水準とも突出しており、2005年10月（84.0）以来の高水準となった。ほぼ7割の回答が仕入れ価格の上昇を指摘していた。この他では雇用指数（前月46.0→49.2）や入荷遅延（前月50.1→53.6）の上昇が比較的大きかった。雇用指数は製造業の雇用増減の境目となる49.5を依然下回っているが、製造業に於ける雇用減の緩和を示唆している。

しかし、新規受注指数（前月49.1→46.5）や生産指数（前月50.7→48.7）等の主要指数では、いずれも連月の減少となっており、製造業における事業活動はなお停滞感の濃い状況にあることを示している。

その他の指数では、輸出指数（前月56.0→56.5）が回復した半面、輸入指数（前月47.5→45.0）が低下を強めた。製造業の輸出指数はその水準でも輸入指数を大きく上回っており、純輸出がなお改善方向にあることを示した。

(図表2) ISM製造業指数の内訳と推移（月別）



(図表3) ISM指数製造業と非製造業指数の一覧

	製造業指数					非製造業指数				
	3月	2月	1月	12月	2→3月 変化幅	3月	2月	1月	12月	2→3月 変化幅
PMI/NMI	48.6	48.3	50.7	48.4	0.3	49.6	49.3	44.6	N/A	0.3
生産/事業活動	48.7	50.7	55.2	48.6	▲ 2.0	52.2	50.8	41.9	54.4	1.4
新規受注	46.5	49.1	49.5	46.9	▲ 2.6	50.2	49.6	43.5	53.9	0.6
雇用	49.2	46.0	47.1	48.7	3.2	46.9	46.9	43.9	51.8	0.0
入荷遅延	53.6	50.1	52.8	52.6	3.5	49.0	50	49	52.5	▲ 1.0
在庫	44.9	45.4	49.1	45.4	▲ 0.5	51.5	50	44.5	50.5	1.5
価格	83.5	75.5	76	68	8.0	70.8	67.9	70.7	71.5	2.9
受注残高	47.5	45.0	44	43	2.5	47.5	49.5	46	49	▲ 2.0
新規輸出受注	56.5	56.0	58.5	52.5	0.5	55.0	46.5	52	50	8.5
輸入	45.0	47.5	52.5	48	▲ 2.5	54.5	49	41.5	50.5	5.5
在庫センチメント	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	60.5	60.5	57	64.5	0.0
顧客在庫	51.0	49.0	49.5	51.5	2.0	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A

製造業では、受注や生産が下押し、総合指数（PMI）は2ヵ月連続で50を下回った。価格指数の上昇は、エネルギー価格上昇が仕入れ価格全般への影響を強めていることを示唆しており、懸念材料と言えよう。半面、雇用指数が持ち直し、輸出が堅調で、在庫水準も低い等の状況が示されており、急速に底割れするような状況にもないと思われる。総じて、製造業では緩やかな調整局面が続いていると解釈できよう。

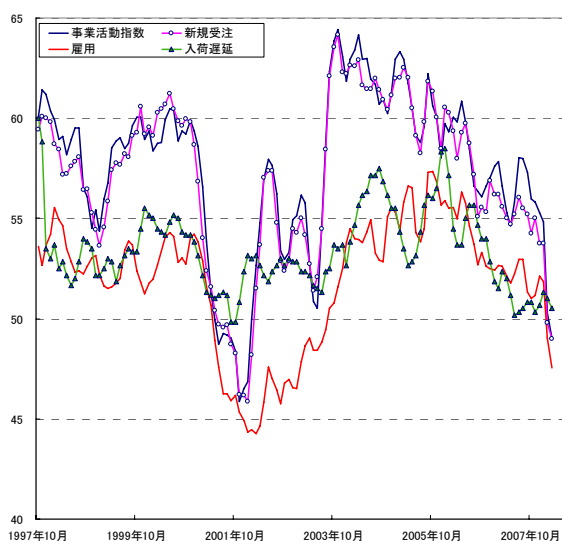
3、非製造業の各指数では、輸出入指数・価格指数の上昇が大

非製造業では、NMI および事業活動指数が上昇を見せ、その他の指数も全般上昇するものが多く見られた。中でも、輸出入指数の上昇が大きく、新規輸出受注が55.0(前月46.5)と8.5ポイント上昇し、各指数のうちで最も大幅なものとなり、輸入指数も54.5(前月49.0)と5.5ポイントの上昇を見せた。輸出受注増を回答した業種には、エンターテインメント、科学技術サービス、小売業等がある。その他では、仕入れ価格の上昇幅が比較的大きく、また、70.8(前月67.9)と高水準が目立つ。サービス業でもエネルギー価格上昇等の影響は大きく、価格上昇の回答は過半(2月41%→3月53%)に増加し、農林水産業を除くすべての業種で仕入れ価格上昇が報告された。

半面、指数が下落したのは、受注残高47.5(前月49.5)と入荷遅延は49.0(前月50.0)の2指数に留まった。なお、雇用指数は46.9(前月46.9)と前月から横ばいとなったが、1月以降3ヵ月連続で50を下回る推移が続いている。雇用減少を回答した業種には、金融・保険、小売・卸売業等が含まれる。

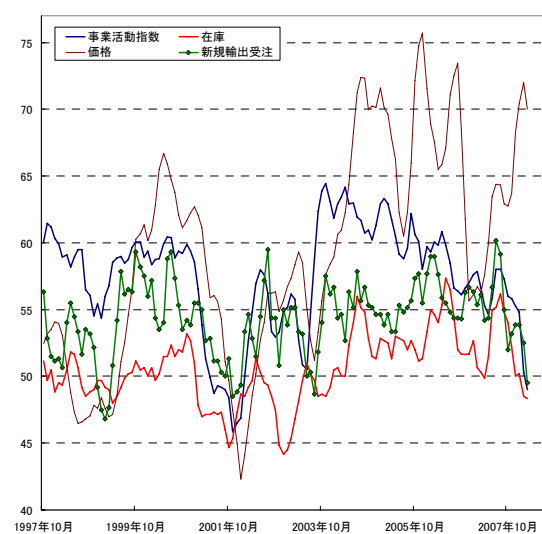
非製造業でも、3月はエネルギー価格等の上昇を受けた仕入れ価格の上昇が続き、一般的に事業活動が不冴えな中、輸出に関しては堅調さを回復している構図が窺われる。

(図表4) ISM非製造業指数の内訳(1)



注：3ヵ月移動平均

(図表5) ISM非製造業指数の内訳(2)

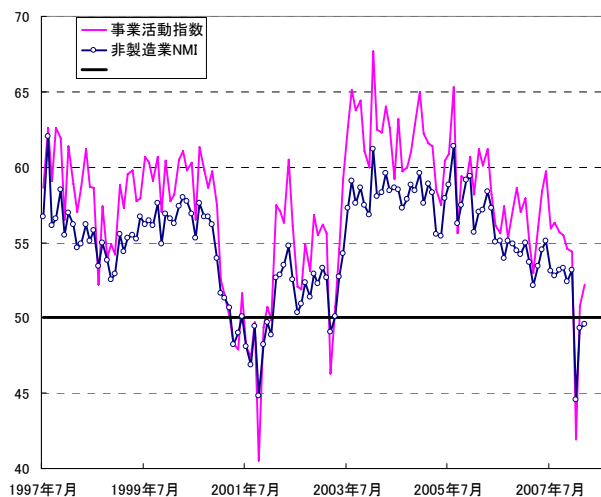


注：3ヵ月移動平均

《参考》

本年1月分より、非製造業指数においても総合指数(NMI : Non-Manufacturing Index)が発表されている。NMIは、これまで発表されていた事業活動、新規受注、雇用、入荷遅延の各指数を25%ずつ均等なウェイトで構成したもので、3月は49.6となった。過去の同指数は発表されていないため、試算ベースでの過去の歴史を見ると、概ね事業活動指数をやや下回って推移しており、変動幅も事業活動指数より狭い傾向にある。なお、1月には44.6(12月推定値53.2)と急落したが、これまでの最低値とみられる2001年10月の試算値44.8を下回り、97年の非製造業指数開始以来の最低値だったと見られる。

(図表6) ISM非製造業 NMI の推移(月別)



注：非製造業 NMI の過去の数値は当研究所試算値。